

7月20日(月)

神の子羊

聖書朗読 ヨハネ 1:29~34

見よ。世の罪を取り除く神の子羊。

ヨハネ 1:29

私の生涯で、この人のためなら何とか無理をしても要求を叶えてあげたいと思う特別な人達があります。例えば母であり、妻であり、特別な友人です。理性を欠いたように見える犠牲をも、私は敢えて払いたいと思います。しかし時々自問します。彼らのために死ぬ事が出来るだろうか。すぐに、そうしない理由はいくらでも思いつきます。

イエス様の死に際し、飛び散った血の恐怖を思い浮かべるとき、何故この様な事が起きたのかを考えてみると、私のためだったという事がわかります。ヨハネの福音書では、イエス様をイメージ的には生贄の為に殺された羊として表現しています。

「私のために?」、 「イエス様は私を知らないのでは」と反発したくなりますが、そのような事は理屈ではないのです。すなわち、私も不名誉や恥を経験するかもしれません。そして全くふさわしくないそんな私に対して偉大な恩恵が与えられる事に驚きを感じるのです。

それは分かりにくいかもしれませんが、本当なのです。イエス様は私のために死なれたのです。その事によって愛という言葉が無限に広がっていきました。私は愛がそんなに大きいものとは夢にも思いませんでした。イエス様は、敵であろうとも互いに愛し合いなさいと、呼びかけられました。何と素晴らしい暗示でしょう。

讃美歌 257

祈り 主よ。私たちはいつもあなたの愛に鈍感です。あなたの愛を十分に感じるように導いてください。

イエス様の御名により。アーメン。

トニー・アッシュ

テキサス州 アビリン

今日のカ

2015年7月20日~7月26日

翻訳 井上輝彦

編集 岩田欣三

この冊子の聖句は、新改訳聖書第三版を使用しています。

御茶の水キリストの教会

7月21日(火)

神様が求めるもの

聖書朗読 ヨハネ 6:25~29

イエスは答えて言われた。「あなたがたが、神が遣わした者を信じること、それが神のわざです。」
ヨハネ 6:29

古くからの話ですが、信仰と行いという議論の事をご存知ですか。さてどちらがどちらでしょう。パウロは、ある事を言い、ヤコブは別のことを教えていました。この矛盾のために、マーティン・ルターは、新約聖書におけるヤコブの手紙の位置づけに疑問を呈し、それをつまらない手紙と言いました。そのような議論は長い間耳にします。

今日の聖書箇所ではイエス様は、素晴らしい教えをしています。神様が私たちに求める行為(わざ)は信じる事 だと。

聖書を詳説する著者がその意図を原書に立ち返り表現していることに感謝します。その翻訳は美しくかつ正確であり、真に信じることは、イエス様に忠実であり、頼り、信頼する事であると言っています。それは生き方の変化であり、愛のある行為により表現されます。

さて、それが神の求めるわざである。

恵み深い主への信仰無しには喜びは無い

御霊が私の中で働き、信仰が愛によって

受け入れられるようにお願いします。

——人の全義務 1658

聖歌 295

祈り 主よ。私の信仰により愛による服従と奉仕をあなたとあなたの被造物に示すことが出来ますように。

イエス様の御名により。アーメン。

ブルース・ヘンダーソン

ネバダ州 カールソンシティ

7月22日(水)

あなたは何様ですか

聖書朗読 ヨハネ 8:48~59

まことに、まことに、あなたがたに告げます。だれでもわたしのことばを守るならば、その人は決して死を見ることはありません。
ヨハネ 8:51

神様と直に向き合っている時でさえ、神様の意思と言葉を曲解し、主は悪霊につかれていると思う事はありうる事です。想像してみましょう。人間の姿をした神様イエス・キリストが宗教指導者の前に立っている時、彼らはイエス様を悪霊につかれた者と非難しました。

しかしこれは今日でも起りうる事です。周りの人間は善を悪と言い、悪を善と言います。これは、サタンを特徴づけるトレードマークです。というのは、彼は嘘つきで嘘の父だからです。

イエス様は、指導者に対して説得を試みられました。『わたしは悪霊につかれてはいません。わたしは父を敬っています。しかしあなたがたは、わたしを卑しめています。しかし、わたしはわたしの栄誉を求めません。それをお求めになり、さばきをなさる方がおられます。まことに、まことに、あなた方につげます。だれでもわたしのことばを守るならば、その人は決して死を見ることはありません。』(ヨハネ8:49~51)

イエス様は永遠の命をお与えになりました。それなのに指導者達は、悪霊につかれていると言うだけでなく、「あなたは一体何者だと思っているのか」と大声を張り上げました。皮肉ではありませんか。ご自分の事を一番分かっているお方にその権威を下げるような事を言ったのです。しかし本当は私たち一人ひとりがそれに答える必要があるのです。自問してみましょう。「ナザレのイエス様はどんなお方? 本当の意味でそのお方を知っているの?」

讃美歌 79

祈り 我が主よ。あなたのお名前を賛美します。私たちはメシアである御子イエス様を愛し、あなたがいつも一緒に居てくださいますように。

あなたの偉大な約束に感謝して、救い主を通して祈ります。アーメン。

ビル・ヘネガー

カルフォルニア州 ウエストレイクビレッジ

7月23日(木)

2日間待ったイエス様

聖書朗読 ヨハネ 11:1~6

もしまだ見ていないものを望んでいるのなら、私たちは、忍耐を持って熱心に待ちます。ローマ 8:25

ラザロの生き返りの話は、イエス様が、既に死体処理を施されたラザロに対して「ラザロよ、出てきなさい」と叫んだら実際に生き返った、と言う感動的な話に落ち着きがちです。しかし、その勝ち誇ったような場面の前には、悩ましい光景がありました。イエス様は、マリアとマルタが、すぐの訪問を必死に望んでいるのを知りながら、ラザロの病気の知らせを聞いて二日間待たれました。

二人の姉妹が、イエス様の訪問を今か今かと待ち望みながらも、すぐには来られない事が分かった時の苦悩を想像してみましょう。イエス様に何かあったのか？ 死んでしまった人はどうする事も出来ないのか？ イエス様の無関心？ イエス様が遅れる理由については、なにも聞かされていなかったのです。ただ、弟子達(2人の姉妹ではなく)にはこの病気は死で終わるものではない事を告げられていました。

マルタとマリアが、イエス様のよみがえりとその命という一変するような事実を経験する前は、彼女らは、我が主はすぐに来られないという困難な事実には耐えられませんでした。ドイツの戦時強制収容所には次のように落書きされていました。「私は太陽の存在を信じます。たとえそれが輝いていなくても。愛を信じます。それが示されなくても。神を信じます。語りかけられなくても」。そして、そんな時には、私たちはイエス様を信じるべきです。すぐに来られなくても。

聖歌 185

祈り 親愛なる主よ。私たちは小さい子どものように困った時に助けを求めあなたの来訪をお願いします。また来訪を待つ事も恵みである事を学ばせてください。

イエス様の御名により。アーメン。

デヴィット・ラングフォード
テキサス州 ラボック

7月24日(金)

イエス様は、来られる？

聖書朗読 ヨハネ 11:54~57

あなたがたは、十字架につけられたナザレ人イエスを捜しているのでしょうか。あなたの方はよみがえられました。ここにはおられません。ご覧なさい。ここがあの方の納められた所です。マルコ 16:6

私たちは、いい話は好きでしょう。信者達は「過ぎ越し祭にイエス様は来られるだろうか？」と宮で立ち話をしていました。彼らはみな、イエス様が来られたら如何に危険かに気づいていました。パリサイ人の祭司長に捕まえられる恐れのため行かないよりも、弟子達を愛しているの由来れるのではないかと尋ねる人がいなかったのかなと思います。

もし彼らが、イエス様が愛している事を知っていたなら、もまもなく主は捕えられ、彼らのために十字架に掛かるという事に気づいていただろうか。時には、私たちは身の回りで話されている事に取りつかれ最も重要な事を忘れてしまします。またある時には、質問したりするのを避けてじっとしている事の重要性を忘れてしまします。イエス様は意図的に人々が死への準備するのを避けたりなさいました。イエス様は、父の御旨により行動されました。そして私達を罪から救って下さいました。あなたはどうか考えるか知りませんが、イエス様が直ぐに現われなかった事は良かったと思います。

聖歌 623

祈り 私たちの人生において、充実したものよりはるかにつまらないものに囚われがちです。あなた様に栄光がありますように。

イエス様の御名により。アーメン。

マール ラベンダー
テネシー州 ブレンドラッド

7月25日(土)

私たちはどこから来たのでしょうか

聖書朗読 ヨハネ 13:1~17

だが、今、ヤコブよ。あなたを造り出した方、主はこう仰せられる。イスラエルよ。あなたを形づくった方、主はこう仰せられる。『恐れるな。わたしがあなたを贖ったのだ。わたしはあなたの名を呼んだ。あなたはわたしのも。』

イザヤ 43:1

ユダヤ人は、創造主は誰で、自分達は誰の者かをいつも心に留めておく必要がありました。私達も同じです。これが毎週日曜日に主の食卓に預かる理由の一つです。ヨハネの福音書では、最後の晩餐でイエス様の最も偉大な教えに着目しています。イエス様は、自分はどこから来てどこへ行くかをご存知でした。そして進んで自分を低くし奉仕者として弟子の足を洗い、弟子達や私達にも同様に奉仕するようにお教えになりました。イエス様は自分が何者かご存知で、御自身の栄光とは無関係なお方です。身を低くして奉仕する事は私達にとっても簡単ではありません。と言うのも、私達は自分が何者か、誰の者なのかを忘れるからです。

三歳の孫息子が、最近アイスクリーム屋さんから「坊や、どこから来たの？」と尋ねられ、孫は怪訝な顔つきで答えました。「神様が僕を造って下さった」。なんと素晴らしい答えでしょう。以来私が旅行中、同様の質問に対しての答えが変わりました。信じて。私の答えに対して皆怪訝な顔をしますが、本当です。常にこの事に、心を留めるべきだと思っています。神様は、私に与えてくださったもので他人に奉仕をするように私を創造されたのです。

あなたはどこから来たのか知っていますか？

讚美歌 第二編 161

祈り 神様。私たちがどこから来てどこへ行くかを悟らせて下さり感謝します。キリストに於ける新しい自分の存在が、必要な人や滅入りそうな世界に自分のためにではなく奉仕できますように。

イエス様の御名を通して。アーメン。

アール・ラベンダー

テネシー州 ブレントウッド

7月26日(日)

約 束

聖書朗読 ヨハネ 14:1~4

約束された方は真実な方ですから、私たちは動揺しないで、しっかりと希望を告白しようではありませんか。
ヘブル 10:23

先週末、結婚式に参列した時の事です。前列に立った花嫁と花婿は神様とお互いの前で約束をしました。説教者はヨシユアが神様にした約束、『私と私の家は、主に仕える。』（ヨシユア24:15）を復唱させました。このカップルがお互いと神様への愛と服従を誓ったのを見て私の心は喜びで満ち溢れました。しかし彼らの喜びは長く続かないのです。と言うのは、花婿はすぐに海軍へ行くために別れなければならなかったのです。彼が去る前、花嫁にきつと戻ってくると約束をしました。

イエス様は花婿で、教会は花嫁です。イエス様が、この世を去らなければならない事や必ず戻ってくる事を花嫁に約束しました。そして『わたしが行って、あなたがたに場所を備えたら、また来て、あなたがたをわたしのもとに迎えます。わたしのいる所に、あなたがたをもおらせるためです。』（ヨハネ14:3）とおっしゃいました。イエス様は、花嫁を住まいのたくさんある父の家まで連れて行かれるのです。

いつかイエス様は戻ってきて私達を天国へ連れて行ってくださることでしよう。神様は約束を守ると信じています。

イエス様 私たちをあなたに近づけさせて下さい
あなたの愛する腕の中でしっかりと抱きしめて下さい
あなたの御前で包み込め
終末が来たら、天国へ連れて行って下さい

———— ミッシェル・カード

讚美歌 488

祈り 御在天の父なる神様。あなたの大きい愛と誠に感謝します。主よ、すぐに来て私達を天国に迎えてください。

イエス様の御名により。アーメン。

キャロル・ロード
コロラド州 プエブロ